

第7期中間事業報告書

平成17年1月1日 ▶ 平成17年6月30日



AnGes

アンジェス MG株式会社

証券コード4563

Top Interview

トップインタビュー

HGF遺伝子治療薬に加えて、 NFκBデコイオリゴも臨床試験開始へ



HGF遺伝子治療薬は臨床試験が進展し、特許網の強化を図るなどその上市を見据えた準備段階に入りました。NFκBデコイオリゴについても新たに臨床試験を始める目処が立ちました。

代表取締役社長 山田 英

Q

この半年間を振り返って、株主の皆様への報告をお願いします。

A

まずHGF遺伝子治療薬プロジェクトについては、足の血管疾患のPAD（Peripheral Arterial Disease、末梢性血管疾患）領域で米国の第Ⅱ相臨床試験の症例登録を5月に終わることができました。今後は、各症例投与後の評価期間が終わり次第、データ解析を行い、同試験の成績評価を終える予定です。

PADについては、日本においても第Ⅲ相臨床試験を進めておりますが、症例の獲得に全力を尽くし、早期に当局への承認申請に持ち込みたいと考えております。

一方、心臓の血管疾患であるIHD（Ischemic Heart Disease、虚血性心疾患）領域についても、昨年11月より米国において第Ⅰ相臨床試験を進めております。

なお、HGF遺伝子治療薬の知的財産については、HGF遺伝子治療薬を広範にカバーする基本特許が、日本、米国に続いて、欧州においても成立いたしました。これにより、当社グループは、世界の主要国においてHGF遺伝子治療薬

を独占的に事業化する権利を確保したことになります。

また、HGF遺伝子治療薬投与のために必要な特許として、米国バイカル社から非ウイルス系の遺伝子投与方法をカバーする一連の特許群に関して、日本、米国、欧州における独占的ライセンスを獲得いたしました。

このように、HGF遺伝子治療薬プロジェクトについては、その成果が目に見える形で現れる段階となり、いよいよ上市を見据えて準備を進めるステージに入っております。

NF κ Bデコイオリゴプロジェクトにつきましては、この半年間で、アトピー性皮膚炎領域を対象として、日本で臨床試験を開始する目処が立ったことを報告いたします。この臨床試験開始に先立ち、6月に、アルフレッサファーマ株式会社と共同開発契約を締結することができました。この提携についての注目点は、開発費負担を減らすという財務的な効果とともに、上市後の自社販売権を留保したことにあります。これは、当社が、研究開発特化型の“バイオベンチャー”から、研究開発から販売までの一貫したプロセスを有する“製薬会社”へのステップアップを意図した提携です。

HVJ-E非ウイルス性ベクターについては、大阪大学、産業技術総合研究所関西センターとの共同研究によって、新しい検査用遺伝子や治療用遺伝子を多数同定することができました。また、三菱スペース・ソフトウェア株式会社と共同で開発した、次世代核酸医薬siRNAのデザインシステムについては、4月に受託サービスを開始することができました。

HVJ-E非ウイルス性ベクターをDDS（Drug Delivery System、薬剤送達システム）に応用する研究としては、臨床応用プロジェクトをIBD（Inflammatory Bowel Disease、炎症性腸疾患）等に絞込み、薬効・薬理試験や安全性試験データの取得や製剤化検討を進めております。



IRという面では、3月末にベンチャー企業としては初めて、知的財産報告書を発刊いたしました。我々のようなバイオベンチャーは、初期の研究開発に多額の投資を必要とします。ハイリスク・ハイリターンが事業の前提であり、投資家やアナリストの方々には多面的な企業情報を公開、提供し、企業としての現状を正しく伝えて評価して頂く必要があります。特に知的財産は、その評価のための最も基本的な情報であり、ベンチャー企業にとっては一つ一つの知的財産が企業価値評価に占める重要度は大企業と比較すると極めて高いという特徴があります。こうした背景があって、知的財産報告書の発刊は、大学発バイオベンチャーの先駆けとして株式公開を果たしたアンジェスに課せられた大きな使命と考えました。知的財産報告書は、当社ホームページにも掲載しておりますので、是非一度ご覧頂きまして、弊社への理解を深めて頂ければ幸いです。

この半年間だけでも、株主総会、株主説明会及びその他のIR活動を通して、たくさんの株主の皆様から、私のもとに弊社への期待感や叱咤激励のお言葉を頂いております。アンジェスは、多くの株主様の期待を背負っていることを肝に銘じ、世界に誇ることできる先端的な遺伝子治療薬を開発していることを自覚し、今後もこれまで以上の熱意と自信をもって開発を進めてまいりたいと思います。



医薬品開発の状況

プロジェクト	対象領域	地域	開発段階	提携等
HGF遺伝子治療薬	末梢性血管疾患	日本	第Ⅲ相	第一製薬株式会社
		米国	第Ⅱ相	
	虚血性心疾患	日本	臨床準備中	
		米国	第Ⅰ相	
	パーキンソン		前臨床	未定
NF κ Bデコイオリゴ	アトピー性皮膚炎	日本	第Ⅰ相準備中	アルフレッサファーマ株式会社
	乾癬		前臨床	未定
	関節リウマチ		臨床準備中	生化学工業株式会社
	変形性関節症		前臨床	
	血管再狭窄予防		臨床準備中	株式会社グッドマン

一般的な新薬開発のプロセスと期間

一般的に医薬品の開発は、新薬候補物質が決まるとまず動物試験など前臨床試験が実施され、有効性及び安全性などが確認されます。この前臨床試験を経て、実際にヒトに投与する臨床試験（治験）に入ります。

臨床試験は、通常、下記の通り第Ⅰ相、第Ⅱ相、第Ⅲ相に分かれて実施されます。医薬品を開発する製薬会社は、これら試験における新薬候補物質の有効性及び安全性の成績をもって、行政当局に新薬承認申請し、承認が得られた後に発売可能になります。

ただし、癌など重篤な疾患を対象とする場合には、必ずしも臨床試験の構成が下記の通りになる訳ではなく、より効率的な試験の構成が可能になる場合もあります。

プロセス	期間	内容
基礎研究	2～3年	新規物質の創製及び候補物質の絞り込み
前臨床試験	3～5年	実験動物を用いて、有効性及び安全性を確認する試験
臨床試験	3～7年	第Ⅰ相：少数健康人を対象にして、安全性及び薬物動態を確認する試験
		第Ⅱ相：少数患者を対象にして、有効性及び安全性を確認する試験
		第Ⅲ相：多数患者を対象にして、既存薬との比較により有効性及び安全性を確認する試験
申請・承認	1～2年	国（厚生労働省）による審査

Main Project

主要プロジェクト

1

HGF遺伝子治療薬

HGF（Hepatocyte Growth Factor、肝細胞増殖因子^{*1}）は、肝臓の細胞を増やす因子として1984年に大阪大学の中村敏一教授により発見されました。最初は、肝臓の病気の治療薬として研究されていましたが、HGFの遺伝子を投与することで血管を新しく増やす治療法が1995年に大阪大学大学院の森下竜一寄附講座教授により発明されました。HGF遺伝子治療薬は、血管が詰まり血流が悪くなっている虚血性疾患に対して、血管を新生するというこれまでにない治療薬になる可能性があります。

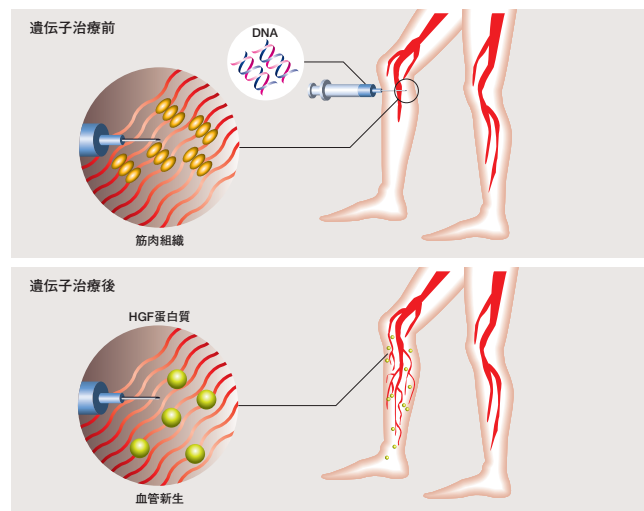
血管が詰まることにより生じる病気には、例えば、①糖尿病などにより足の血管が閉塞し、血液がうまく届かず壊死して最終的には足を切断しなければならなくなる末梢性血管疾患^{*2}（閉塞性動脈硬化症やバージャー病）や、②心臓の冠動脈の血流が悪くなって起こる虚血性心疾患^{*3}（狭心症や心筋梗塞）があります。これらの病気に対しては、重症になると、薬物療法のほか、バルーンカテーテル（カテーテルにより血管を通して動脈の形成を行う治療）やバイパス手術を施しますが、それでも十分に回復しない場合があります。HGF遺伝子治療薬は、こうした他に治療法がなく、足を切断せざるを得ない症例に対しても効果が期待され、注射という簡便な方法で血管を新生させ治療することを目指しております。当社グループでは、まず、従来の治療法では十分に回復しない症例を対象に開発を進める方針です。

このような血管新生療法は、米国では、VEGF（Vascular Endothelial Growth Factor、血管内皮細胞増殖因子）やFGF（Fibroblast Growth Factor、線維芽細胞増殖因子）等を用いた遺伝子治療の臨床試験が行われ、血流が回復して足の切断を免れた症例も報告されております。HGFは、これら競合の遺伝子治療薬より血管新生作用が強いことが動物実験で示されており、しかもVEGFでみられる浮腫の副作用が見られていないことから、有効性と安全性の両面で競合品と差別化できると考えております。

末梢性血管疾患領域については、米国で第Ⅱ相臨床試験、日本で多施設二重盲検試験を第Ⅲ相臨床試験として実施しております。虚血性心疾患領域についても、米国で第Ⅰ相臨床試験を進めております。

なお、HGF遺伝子治療薬の末梢性血管疾患及び虚血性心疾患領域については、第一製薬株式会社と販売提携しております。

注射によるHGF遺伝子治療（末梢性血管疾患）



用語解説

^{*1} 肝細胞増殖因子（Hepatocyte Growth Factor: HGF）肝細胞から発見された増殖因子で、血管新生作用を有するほか、発生過程における器官形成や傷害に伴う組織・器官の再生において重要な役割を担います。

^{*2} 末梢性血管疾患（peripheral arterial disease）四肢の末梢血管が閉塞することにより、筋肉や皮膚組織が虚血状態に陥り、しびれ、冷感、間歇性跛行、安静時疼痛、下肢潰瘍などの症状を示します。閉塞性動脈硬化症やバージャー病があります。

^{*3} 虚血性心疾患（ischemic heart disease）心臓を養う動脈（冠動脈）がある程度狭窄すると、労作時に十分な血液が流れず、胸苦しさや胸痛などの症状を示す狭心症や、冠動脈が完全閉塞し、心筋組織が虚血状態になる心筋梗塞があります。

2

NF κ Bデコイオリゴ

遺伝子医薬には大きく分けると二つの方法があります。一つは、HGF遺伝子治療薬のように遺伝子そのものを利用するもの、もう一つは核酸合成機で作成される人工遺伝子を利用するものです。後者は、遺伝子そのものではなく、遺伝子の構成成分の一部のみを使うため人工遺伝子と呼ばれたり、核酸からできているので核酸医薬と呼ばれたりしております。

デコイは、この核酸医薬の一種です。遺伝子は、転写因子がゲノムに着地してスイッチが入りますが、デコイは、そのゲノム上の転写因子結合部分と同じ配列を含む短い核酸(DNA)を人工的に合成したもので、体内に投与すると転写因子がゲノムに着地することを阻害して遺伝子の働きを抑えます。

NF κ Bは、免疫反応を強める遺伝子のスイッチである転写因子で、このNF κ Bに対するデコイを作成することでアトピー性皮膚炎や関節リウマチなど過剰な免疫反応を原因とする病気の治療を目指しております。この治療法は、1995年に大阪大学大学院の森下竜一寄附講座教授により発明されました。当社では、アトピー性皮膚炎領域を対象とし、日本で第I相臨床試験を間もなく開始する予定です。

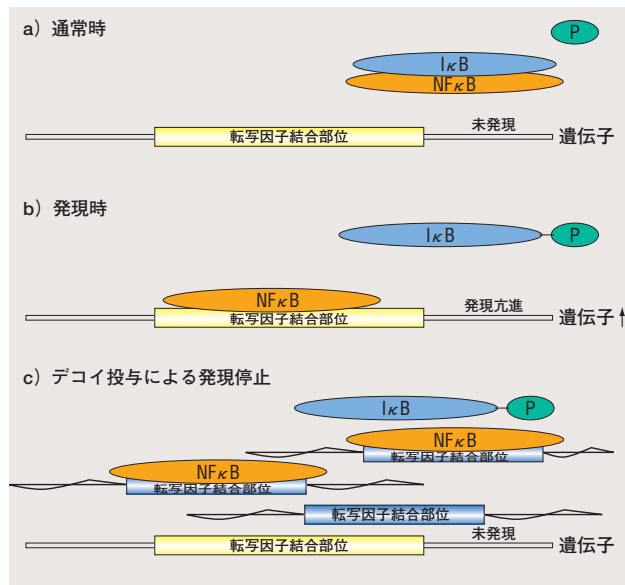
なお、NF κ Bデコイオリゴについては、アトピー性皮膚炎領域においてアルフレッサファーマ株式会社と、関節リウマチ及び変形性関節症領域において生化学工業株式会社と共同開発契約を締結しております。血管再狭窄予防^{※4}領域においては株式会社グッドマンと業務提携をしております。

用語解説

※4 血管再狭窄予防

(血管の)狭窄とは、血管が詰まり狭くなってしまうことです。動脈硬化により生じる冠動脈などの狭窄は、主にバルーンカテーテルを用いた血管拡張術(いわゆる風船療法)により狭窄部位を広げる治療法が用いられています。しかしながら、この手法は、30~40%の症例において、(再度血管の詰まる)再狭窄が生じるという欠点があり、血管拡張術後の再狭窄を予防できる製品の開発が期待されています。

NF κ Bデコイオリゴの作用原理



3

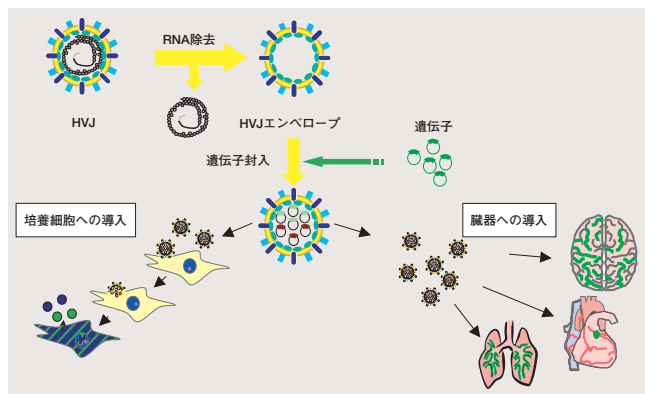
HVJエンベロップベクター

遺伝子が体内でうまく働くためには、細胞の中に入らなければなりません。遺伝子は、そのまま細胞に近づくことはできても、細胞の中に入っていくことはできません。遺伝子治療薬には、細胞の膜を突破し、細胞の中に遺伝子を運ぶ役目をする優れたベクター（運び屋）が必要になります。

HVJ（Hemagglutinating Virus of Japan、別名センダイウイルス）は、1950年代に日本で発見されたウイルスです。このHVJの中のゲノムを全て除去し、膜のみを用いるベクターがHVJエンベロップベクター（以下、HVJ-E非ウイルス性ベクター）です。このベクターの製造方法が、2000年に大阪大学大学院の金田安史教授により発明されました。

HVJ-E非ウイルス性ベクターは、膜に細胞を融合（細胞融合）する作用があることから、遺伝子を細胞に導入する効率が高く、しかもウイルスゲノムが全て除去されているため、ヒトに対する安全性も高いベクターです。遺伝子治療に用いるベクターは、主にウイルス性ベクターと非ウイルス性ベクターに分けられます。

HVJ-E非ウイルス性ベクターによる遺伝子導入システム



す。ウイルスの感染能力を利用するウイルス性ベクターは、導入効率は高いが安全性の面に問題があり、脂質材料などによる非ウイルス性ベクターは、安全性は高いものの導入効率の面に問題がありました。HVJ-E非ウイルス性ベクターは既存ベクターの持つこれらの問題点が解決されているため、汎用性が高く、世界をリードするベクターになる可能性があります。

HVJ-E非ウイルス性ベクターは、遺伝子治療薬への応用のほか、核酸医薬や蛋白医薬、さらに低分子化合物など従来からある医薬品の薬剤吸収を向上するDDSとして有効である可能性があります。

また、HVJ-E非ウイルス性ベクターは、膜に細胞融合作用があることから、高い効率で、しかも迅速に遺伝子を運び込むことができ、ウイルスのゲノムが全て除去されていることから、ヒトに対する安全性も高く、一度に大量の遺伝子を封入することもできます。このため、HVJ-E非ウイルス性ベクターは、遺伝子機能解析のツールとしても有力な手段です。ベクターにより調べたい遺伝子を細胞や臓器に導入し、実際にどのような影響が出るかを観察することで新規有用遺伝子を見つけることができます。

以上、HVJ-E非ウイルス性ベクターは、DDSに応用する研究としては、臨床応用プログラムとしてIBD等に対象疾患の絞込みを行い、臨床応用に必要な薬効・薬理試験、安全性試験データの取得や、製剤化検討を進めております。

また、創薬シーズや診断薬の探索研究としては、大阪大学、産業技術総合研究所関西センターとの共同研究により、新しい検査用遺伝子や治療用遺伝子を多数同定しております。また、大阪大学、産業技術総合研究所関西センター、三菱スペース・ソフトウェア株式会社と共同で開発した、次世代核酸医薬（siRNA）のデザインシステムについては、製品化を完了して平成17年4月より受託サービスを開始しております。

Consolidated Financial Statements

中間連結財務諸表

● 中間連結貸借対照表

科目	前中間期	当中間期	前期
	(平成16年6月30日現在)	(平成17年6月30日現在)	(平成16年12月31日現在)
資産の部			
流動資産	10,147,693	8,737,461	9,488,373
現金及び預金	5,416,473	4,988,584	7,003,451
売掛金	107,543	244,108	82,122
有価証券	2,100,120	1,501,014	499,100
たな卸資産	552,146	555,996	544,684
前渡金	1,309,343	849,338	656,659
前払費用	63,504	56,860	71,190
立替金	80,841	39,499	127,116
信託受益権	500,000	500,000	500,000
その他	17,719	2,058	4,047
固定資産	482,611	848,677	520,991
有形固定資産	183,941	212,843	219,492
建物	91,661	54,130	60,172
機械装置	14,377	8,015	10,262
工具器具備品	77,902	150,697	149,056
無形固定資産	237,779	380,152	248,713
連結調整勘定	18,217	11,101	12,773
特許権	165,282	300,986	173,141
その他	54,279	68,064	62,799
投資その他の資産	60,890	255,681	52,786
投資有価証券	1,000	110,000	1,000
敷金保証金	40,125	39,037	36,997
その他	19,765	106,643	14,788
資産合計	10,630,304	9,586,138	10,009,364

(単位：千円)

科目	前中間期	当中間期	前期
	(平成16年6月30日現在)	(平成17年6月30日現在)	(平成16年12月31日現在)
負債の部			
流動負債	1,723,517	1,279,842	1,240,312
買掛金	111,858	114,986	117,289
未払金	78,152	91,879	122,273
未払費用	13,468	5,908	4,427
未払法人税等	3,152	9,983	10,960
未払消費税等	—	3,371	—
前受金	1,499,719	1,046,869	978,379
預り金	17,165	6,845	6,982
負債合計	1,723,517	1,279,842	1,240,312
少数株主持分			
少数株主持分	21,153	99,353	112,526
資本の部			
資本金	4,939,128	5,382,704	5,156,314
資本剰余金	6,236,521	3,693,447	6,453,707
利益剰余金	△2,280,329	△856,017	△2,940,607
その他有価証券評価差額金	△66	△5,405	△900
為替換算調整勘定	△9,620	△7,787	△11,989
資本合計	8,885,633	8,206,941	8,656,525
負債、少数株主持分及び資本合計	10,630,304	9,586,138	10,009,364

●中間連結損益計算書

(単位：千円)

科目	前中間期 (自平成16年1月1日 至平成16年6月30日)	当中間期 (自平成17年1月1日 至平成17年6月30日)	前期 (自平成16年1月1日 至平成16年12月31日)
事業収益	876,194	1,200,756	2,696,299
事業費用	1,764,925	2,205,997	4,257,342
研究開発費	1,459,238	1,921,059	3,679,079
販売費及び一般管理費	305,686	284,938	578,263
営業損失	888,730	1,005,241	1,561,043
営業外収益	8,138	108,214	13,755
受取利息	3,046	1,901	5,670
補助金収入	1,972	104,566	2,030
還付消費税等	2,045	—	3,475
賃貸収入	900	684	1,692
雑収入	173	1,062	885
営業外費用	2,655	9,360	11,701
新株発行費償却	1,550	4,162	6,741
為替差損	972	5,198	4,827
雑損失	133	—	133
経常損失	883,248	906,386	1,558,989
特別利益	116	—	62,967
貸倒引当金戻入益	116	—	116
持分変動利益	—	—	62,850
特別損失	670	4,410	44,844
固定資産除却損	670	4,410	44,844
税金等調整前中間(当期)純損失	883,801	910,797	1,540,866
法人税、住民税及び事業税	2,277	4,436	10,228
少数株主損失	4,884	13,172	9,623
中間(当期)純損失	881,195	902,060	1,541,472

●中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科目	前中間期 (自平成16年1月1日 至平成16年6月30日)	当中間期 (自平成17年1月1日 至平成17年6月30日)	前期 (自平成16年1月1日 至平成16年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,022,582	△1,054,392	△1,433,547
投資活動によるキャッシュ・フロー	56,986	△912,373	2,962,171
財務活動によるキャッシュ・フロー	308,023	448,617	899,705
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,023	3,282	3,101
現金及び現金同等物の増加額又は減少額(△)	△655,548	△1,514,864	2,431,430
現金及び現金同等物の期首残高	4,572,021	7,003,451	4,572,021
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	3,916,473	5,488,586	7,003,451

●中間連結剰余金計算書

(単位：千円)

科目	前中間期 (自平成16年1月1日 至平成16年6月30日)	当中間期 (自平成17年1月1日 至平成17年6月30日)	前期 (自平成16年1月1日 至平成16年12月31日)
資本剰余金の部			
資本剰余金期首残高	6,081,734	6,453,707	6,081,734
資本剰余金増加高	154,787	226,390	371,973
ストックオプション行使による新株式の発行	154,787	226,390	371,973
資本剰余金減少高	—	2,986,650	—
資本準備金取崩額	—	2,986,650	—
資本剰余金中間期末(期末)残高	6,236,521	3,693,447	6,453,707
利益剰余金の部			
利益剰余金期首残高	△1,399,134	△2,940,607	△1,399,134
利益剰余金増加高	—	2,986,650	—
資本準備金取崩額	—	2,986,650	—
利益剰余金減少高	881,195	902,060	1,541,472
中間(当期)純損失	881,195	902,060	1,541,472
利益剰余金中間期末(期末)残高	△2,280,329	△856,017	△2,940,607

Corporate Data

会社概要 (平成17年6月30日現在)

会社名：アンジェス MG株式会社
(英文名：AnGes MG, Inc.)

会社設立：平成11年12月17日

決算期：12月31日

資本金：5,382百万円

従業員数：64名

●事業所

本社

〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目7番15号
彩都バイオインキュベータ4階

彩都研究所

〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ七丁目7番15号
彩都バイオインキュベータ4階

東京支社

〒108-0014 東京都港区芝五丁目20番14号 三田鈴木ビル5階



単体決算の概要

●中間要約貸借対照表

(単位：千円)

科目	前中間期 (平成16年6月30日現在)	当中間期 (平成17年6月30日現在)	前期 (平成16年12月31日現在)
資産の部			
流動資産	10,001,090	8,430,356	9,012,489
固定資産	555,335	982,477	660,104
資産合計	10,556,426	9,412,833	9,672,593
負債の部			
流動負債	1,652,741	1,227,419	1,050,122
負債合計	1,652,741	1,227,419	1,050,122
資本の部			
資本金	4,939,128	5,382,704	5,156,314
資本剰余金	6,236,521	3,693,447	6,453,707
利益剰余金	△2,271,898	△885,332	△2,986,650
その他有価証券評価差額金	△66	△5,405	△900
資本合計	8,903,685	8,185,414	8,622,471
負債資本合計	10,556,426	9,412,833	9,672,593

●中間要約損益計算書

(単位：千円)

科目	前中間期 (自平成16年1月1日 至平成16年6月30日)	当中間期 (自平成17年1月1日 至平成17年6月30日)	前期 (自平成16年1月1日 至平成16年12月31日)
事業収益	850,912	1,152,688	2,669,149
事業費用	1,724,930	2,132,696	4,212,402
営業損失	874,017	980,007	1,543,253
営業外収益	9,672	106,342	18,452
営業外費用	2,880	10,057	11,337
経常損失	867,225	883,722	1,536,139
特別利益	118	—	118
特別損失	400	—	44,533
税引前中間(当期)純損失	867,507	883,722	1,580,553
法人税、住民税及び事業税	1,897	1,610	3,602
中間(当期)純損失	869,404	885,332	1,584,156
前期繰越損失	1,402,493	2,986,650	1,402,493
資本準備金取崩額	—	2,986,650	—
中間(当期)未処理損失	2,271,898	885,332	2,986,650

Stock Information

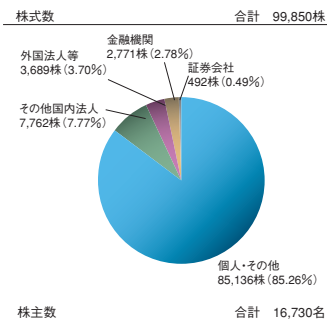
株式の状況 (平成17年6月30日現在)

会社が発行する株式の総数	246,976株
発行済株式の総数	99,850株
株主数	16,730名

●大株主の状況

株主名	持株数	議決権比率
森下 竜一	12,170株	12.19%
中村 敏一	7,000株	7.01%
有限会社イー・シー・エス	5,098株	5.11%
バイオフィロンティア・グローバル投資事業組合 業務執行組合員 株式会社バイオフィロンティアパートナーズ	3,139株	3.14%
森下 翔太	2,400株	2.40%
森下 真弓	2,200株	2.20%
小谷 均	1,985株	1.99%
富田 憲介	1,865株	1.87%
小谷 希美子	1,600株	1.60%
坂田 三和子	1,500株	1.50%

●所有区分別 株式分布状況

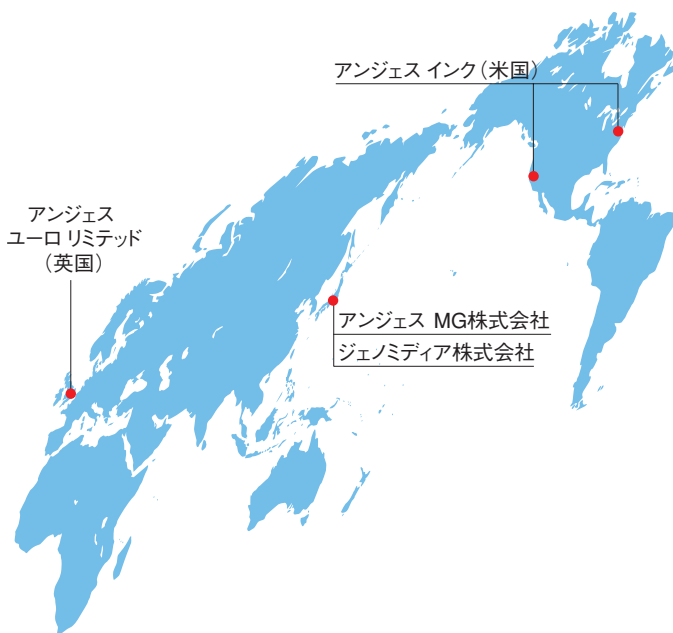


●役員

代表取締役社長	山田 英
取締役副社長	小谷 均
取締役	中塚 琢磨
取締役	森下 竜一
取締役	榎 史朗
常勤監査役	池田 勉
監査役	遠山 伸次
監査役	菱田 忠士

●アンジェス MGグループ

会社名	資本金 主要な事業内容	当社議決権比率
アンジェス インク	100千米ドル 米国での遺伝子医薬品の臨床開発	100.0%
アンジェス ユーロ リミテッド	50千英ポンド 欧州での遺伝子医薬品の臨床開発	100.0%
ジェノメディア株式会社	196,250千円 遺伝子治療用ベクター及びドラッグデリバリーシステムの研究開発、新規有用遺伝子及び分子の探索、遺伝子機能解析	61.6%



●株主メモ

決 算 期 12月31日
定時株主総会 3月中
基 準 日 12月31日(利益配当金) 6月30日(中間配当金)
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話03-5683-5111 (代表)
同 取 次 所 UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 本店及び全国各支店
公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページアドレス
http://www.anges-mg.com/ir_financial.htm

ホームページを
ご覧ください。

最新のニュースリリースやIR資料
などを掲載しております。
ぜひご覧ください。

ホームページアドレス
<http://www.anges-mg.com>



この中間事業報告書に関するお問い合わせ先
東京支社 03-5730-2753